

令和7年

# 区民委員会会議録

とき 令和7年2月26日

品川区議会

令和7年 品川区議会区民委員会

日 時 令和7年2月26日(水) 午前10時00分～午前11時49分

場 所 品川区議会 議会棟5階 第3委員会室

出席委員	委員長 高橋伸明	副委員長 吉田ゆみこ
	委員 せお麻里	委員 ゆきた政春
	委員 安藤たい作	委員 藤原正則
	委員 石田しんご	委員 おぎのあやか

出席説明員	川島地域振興部長	宮澤地域活動課長
	河合生活安全担当課長	今井八潮まちづくり担当課長
	築山戸籍住民課長	小林地域産業振興課長
	栗原創業・スタートアップ支援担当課長	辻文化観光スポーツ振興部長
	大森文化観光戦略課長	三井スポーツ推進課長

○高橋（伸）委員長

ただいまより、区民委員会を開会いたします。

本日は、お手元の審査・調査予定表のとおり、報告事項およびその他と進めてまいります。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

---

1 報告事項

八潮みらいコンセプトの策定について

○高橋（伸）委員長

それでは、予定表1、報告事項を聴取いたします。

初めに、八潮みらいコンセプトの策定についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

○今井八潮まちづくり担当課長

私からは、八潮みらいコンセプトの策定についてご報告いたします。A4の資料をご覧ください。

まず、今回策定いたしましたコンセプトの概要でございます。

八潮まちづくりに関する過去の検討内容を整理した上で、新たに既存の地域資源の整理、次世代の地域活動の担い手の発掘、新たな地域活動の場の検討などの調査を実施いたしました。地域の要望や現状を再確認した上で、八潮地域における今後の地域活動のあり方、つまりコンセプトを示すものでございます。

2、コンセプトの位置づけでございます。

今回策定するコンセプトの方向性に沿いまして、八潮地区内における持続可能な地域活動の実現に向け、来年度以降の事業を具体化していくものでございます。事業の具体化に向けましては、八潮みらい懇談会が、自治会や防災協議会といった地域団体と住民・関係機関とのハブとなりまして、地域全体の意見集約、調整の場として機能するものでございます。

3、コンセプトの策定に向け、実施した内容でございます。

まず1つ目は、八潮地区の基本情報の整理といたしまして、地区の概要ですとか、過去のまちづくり内容の整理ですとか、あとはフィールドワーク、ヒアリングの実施などを行ったところでございます。

2つ目は、まちづくりインタビューによる意見聴取でございます。数珠つなぎ形式のインタビューで、まちづくりへの意見を聴取いたしました。あわせまして、地域団体の代表、NPOなど、計25名の方にインタビューという形で実施させていただきまして、調査を進めさせていただいたところでございます。

3つ目は、まちづくりセミナーの開催でございます。まちづくりインタビューの対象者を中心といたしまして、セミナーを開催させていただきました。新たな地域活動のアイデアを区から提供させていただくとともに、参加者同士の交流と意見交換を実施いたしましたところでございます。

これらの取組を経まして作成したコンセプトについては、詳細を別紙、八潮みらいコンセプト案でご説明させていただきます。別紙の資料をご覧ください。

あらかじめ、申し訳ありません。こちらは資料にページ番号が付番されておりませんので、大変申し訳ないのですが、サイドボックス上のページ数で、ページ数をご案内させていただければと思います。

初めに、ページをおめくりいただきまして、サイドボックス上のページで4ページでございます。左

上に「八潮みらいコンセプトとは」と書いてあるページをご覧ください。まずはこちらでコンセプトの定義を示しております。

こちらの定義といたしましては、八潮地区内における持続可能な地域活動の実現に向けた方向性を定めるものでございます。内容といたしましては、先ほどご説明したとおり、過去のアンケートですとかワークショップで得られた意見を踏まえつつ、新たに地域住民へのインタビューやフィールドワーク等のリサーチを実施し、現在の八潮で望まれる施設や地域活動イメージを取りまとめたものでございます。本コンセプトに基づきまして、今後の八潮地区のまちづくりを推進していく予定としているところでございます。

ページを1枚おめくりいただきまして、次のページでございます。コンセプトを策定した現状の背景といったところの説明でございます。

八潮地区については、入居開始から既に40年以上が経過しているところでございます。今後、団地や公共施設の更新期を迎えるに当たりまして、これまで以上に住民・関係団体同士のつながりづくりが求められているところでございます。

入居開始時とは住民の人口構成比ですとか、人口そのものも大きく変化しているところでございまして、これに伴って、住民の暮らしに必要なインフラやサービスも大きく変化しているといった状況がございます。そのような状況の中で、八潮地区がこれまでも、これからも住み良い街として認識され、住民の本質的に豊かな生活を支える場所として発展していくためにも、今後ますます、地区全体の未来を構想し実施するまちづくりの取組が重要になってくるというところでございます。

そんな中で、地域住民の活動場所として利用されている八潮地域センターですとか、こみゅにていぷらざ八潮といった公共施設につきましても、施設の利用状況を踏まえたあり方の再検討を行うべき時期を迎えているところでございます。品川区では、これらの施設をまちづくりの先駆けとして捉えさせていただきまして、新たな地域コミュニティ拠点として活用することを目標としているところでございます。

こうした背景を踏まえまして、八潮みらいコンセプトにつきましても、地域全体を巻き込んだまちづくりの発展および、より多くの住民のウェルビーイングに資するインフラならびにサービスの提供を目指すものでございます。

次のページに参りまして、八潮地区の現況・概要というところを示させていただきます。

八潮地区の人口につきましては、2025年1月現在で1万1,594人でございます。世帯数については、5,836世帯でございます。1985年に入居開始いたしまして、その完了後、18歳未満の若年層は減少傾向にあるところでございます。高齢化率については、1995年以降、入居開始から10年を経て、急激に上昇し始めておりまして、2025年については36.5%でございます。高齢者単身世帯については、10年間で約2倍に増加しているところでございます。また、外国人居住者が増加傾向にある状況でございます。

次に、サイドボックスで言うところの16ページをご覧ください。左上に「調査手法」という記載のあるページでございます。

先ほどお話しいたしました、今年度のコンセプト策定に向けて実施したリサーチ内容について、簡単にご説明させていただきます。

内容といたしましては、過去の八潮まちづくり事業において、青粋の定量調査の内容を実施させていただいたところでございます。内容といたしましては、数値的・量重視のリサーチということで、例え

ばネットのアンケートですとか、あとは郵送型のアンケートといったところを実施したところでございます。

これに併せまして、今年度の事業といたしましては、これら過去の調査結果を整理するとともに、定性調査というところで、言語的・質重視の研究を実施したところで、内容としては、インタビューですとか、あとはグループワークといったものを中心に調査を進めさせていただいたところがございます。これによりまして、地域の要望をより深掘りして調査したといった内容でございます。調査の詳細につきましては、次ページ以降に記載しておりますので、お時間のあるときにご覧いただければと思います。

これらの研究結果を取りまとめたものが、50ページでございます。研究のまとめのページになります。左上に「研究のまとめ」と記載のあるページでございます。

初めに、研究結果につきましては、その内容に応じまして、6種類に分類しているところがございます。右下の「分類」と記載のあるボックスをご覧くださいいただければと思います。こちらの内容でお示しているとおおり、赤色については、地域内の住民同士が交流する場についての意見でございます。水色については、同じく住民同士がゆったりと過ごす場についてのご意見、紫色については若者の集う場についての意見、それから、緑色については公共施設の活用についての意見、黄色については新たな地域活動についての意見、紺色については自然環境についての意見というところがございます。

改めまして、全体の表をご覧くださいまして、左上のインタビューのインサイトの部分からご説明させていただきます。

こちらの内容からは、あらゆる世代・人が利用できる多機能型施設がないという状況ですとか、日常的に地域のつながりが生まれる場所がない、様々な活動を許容する場所がない、若年層が居場所がないと感じているような状況、それから、地域センター・こみゆにていぶらぎのアクセス、利用しづらさ、また、地域団体同士の活動に隔たりがあるといった状況、それから、新たな地域の担い手の関わりをつくれる仕掛けがないといった課題意識が多く挙げられたところがございます。

また、右側に参りまして、フィールドワークからの課題の部分をご覧ください。こちらの内容といたしましては、赤丸の2つ目でございます。民間施設、商業施設、公共施設ともに、各空間が単一目的での利用・機能に限定されているという状況ですとか、青丸に移りまして、快適に座り過ごせる空間が不足している、街路網に余白がなく移動だけの場になっているといった状況。

それから、紫の丸の部分でございます。中高生無料の学習の場がない。同じく、成長によって変化する子どものための空間がないといった状況。それから、こみゆにていぶらぎ八潮ならびに地域センターの課題といたしまして、アプローチ、閉鎖性、利用や機能面が限定的であるといった状況が再確認できたところがございます。

さらに、表の左側に戻っていただきまして、過去の住民アンケートからの課題と魅力を再整理すると、やはり多様な人々や地域住民が交流できる施設が必要であるといった意見。それから、日常生活から離れ、快適に過ごせる場所がない、公共施設の老朽化対応や活用に向けた検討が必要だということ、それから、自然が豊かな一方で、維持管理が適切にできていないという地域の意見が把握できました。

次のページに参りまして、これらの研究結果を踏まえまして、持続可能な地域活動の実現に向けた今後の方向性、つまりコンセプトを、以下の4点のとおり定めたものがございます。

表の右側、コンセプトの1つ目は、「多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり」でございます。偶発的なつながりが生まれるような、無理のない交流の場をつくることで、地域の豊かな関係基盤を生

み出します。

2つ目、「安心して健康でいられる居場所づくり」です。健康づくりや防災、一人でゆったり過ごすなど、多様なニーズに応えるための多機能な施設の実現に取り組んでまいります。

3つ目は、「次世代の活動が育まれる環境づくり」です。若年層には、地域に貢献したいという意思があるものの、必ずしも受け止められていない状況を変えていくという取組を進めてまいります。

4つ目は、「持続可能な自然環境づくり」でございます。豊かな自然を日常的に享受できる環境を知り、住民が主体的に維持管理にも関わる機会をつくってまいります。

次のページに参りまして、4つのコンセプトが実現する八潮地区の将来像をワンフレーズで表現するキャッチフレーズを定めております。キャッチフレーズは、「人、自然、未来がつながる新しいふるさと八潮」と定めております。

そして、次のページに参りまして、ビジョンの部分でございます。コンセプトの具体化に向けた施設・活動を例示しております。これらの実施によりまして、キャッチフレーズを実現していくという位置づけのものでございます。

まず1点目、「多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり」というコンセプトの実現に向けましては、活動例として、音楽イベントやアート、フードフェアの実施、施設例として、カフェ、コワーキングスペース、シェア食堂を例示しております。

2点目、「安心して健康でいられる居場所づくり」に向けましては、気軽な運動によるリフレッシュ、ご近所同士の交流といった活動例、およびスポーツジム、スタジオスパといった健康づくり的な機能ですとか、災害も想定した多機能な公共施設という安心につながる施設例を提示しているものでございます。

3点目、「次世代の活動が育まれる環境づくり」といたしましては、プロジェクトの企画・立案や、次世代同士が交わり、企画する空間づくりを例示しているものでございます。

4点目、「持続可能な自然環境づくり」に向けましては、地産食品の生産・活用、脱炭素の推進、コミュニティ農園や太陽光発電、熱供給システムの活用を例示しております。

次のページに参りまして、八潮地区の未来イメージといたしまして、ビジョンが実現した地域のイラスト、イメージイラストを示しております。

さらに、次の55ページ以降には、コンセプト実現の参考となる海外を含めた先進事例を掲載しておりますので、こちらもお時間のあるときにご覧いただければと思います。

A4資料にお戻りいただきまして、最後、4点目です。コンセプトを踏まえた来年度以降の事業計画でございます。繰り返しになりますが、コンセプトに沿った具体的施策を検討するという内容になっておりまして、ジムやコース型運動教室のトライアル実施、2番、ご近所交流会「おとなりんく」の開催、3番、農作業体験を通じた食育事業、4番、地場産品を使ったオリジナル商品の開発検討等を進めてまいります。

各事業の実施に当たっては、節目ごとに当委員会にてご報告させていただく予定となっております。

#### ○高橋（伸）委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等ございましたらご発言をお願いいたします。

#### ○安藤委員

ビジョンの作成というところで少しお伺いしたいのですが、私も八潮に住んでいる方にご意見を伺い

ましたところ、入浴施設がないとか、こみぶらの運動施設にシャワーすらないとか、あと、バイクが道路ではなく共通の歩道みたいところを走っていて、危ない思いをしたとか、立ち木の根が伸びて、道路が凸凹になって転びそうになったとか、ここにも書いていますが、公園が暗くて、ソーラー・太陽光発電も含めた街灯をつけてほしいとか、あと細かいことで言うと、スーパーの買物帰りに一方通行のバスしかないので、逆回りのバスが欲しいという、さすが住んでいる人ならではの実感が、様々な声が出されたなと思っています。

今回様々な工夫をして、コンセプトをつくり上げてきたのかなと思うのですが、どんな方でも気軽に、そこに住む住民が意見を出せるということも重要なことなのだと思います。改めて伺うのですが、そもそもみらい懇談会は、前回、構成メンバーとかを聞きましたけれども、これは一般公募をされたのかというのを改めて確認したいなど。もしされたとしたら、どのように公募し選考したのかを伺いたいというのが一つあります。

それと、具体的ところで2つお伺いしたいのですが、先ほど紹介された資料の施設例というところで、災害も想定した多機能な公共施設というのがあるのですが、請願や陳情なども何回か出されたお風呂です。資料を見ると、災害時も想定した施設の多機能化の前段のところに入浴施設とかという話も入っていたので、ビジョンのところに書いてあるのかなと思ったのですが、書いていないので、ここに含まれるということになるのでしょうかというのを伺いしたいのが一つ。

それと、一番右に熱供給システムの活用とあるのですが、太陽光発電というのは大歓迎なのですが、熱供給システムというのは結構独特の課題があって、いろいろどうしていくかという議論もあったと思うのですが、熱供給システムの活用というのは具体的にはどういうことなのかというのを伺いしたいと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

まず、みらい懇談会のメンバーですが、一般公募はいたしていません。参加者としては、自治会連合会の会長ですとか、防災協議会の会長といった地域団体の代表者の方、あるいは、地域内の福祉事業所の代表者の方といったところで、ある意味、これらの方の意見を集約して、協議をしていただけるような方というのを選任しているところでございます。

災害時のシャワーについてはどこに含まれるかといった内容ですが、委員からお話がありましたとおり、施設例の災害時も想定した多機能な公共施設の部分にも含まれますし、あるいは、その隣の施設例のところ、サイドボックスで言うと53ページ、2番の「安心して健康でいられる居場所づくり」の左下の施設例のところ、スポーツジム、スタジオスパのスパについては、広く入浴施設も含めてスパという表現を取らせていただいておりますので、こちらの表現でシャワー等のイメージも含まれているとお考えいただければと思います。

熱供給システムの活用につきましては、例えばほかの地域ですと、熱供給システムを使って温水のプールを運営していたりという自治体もあつたりしますので、こういった先進事例とかも参考にしながら、せっかく今、八潮の中で熱供給システムが循環しているといった環境をどのように活かせるかといったところを、具体化に向けて今後検討していくというような内容でございます。

#### ○安藤委員

懇談会は今後もハブになっていくということもありますけれども、中心メンバーとして引っ張っていくとか、考えていく人たちの集まりはすごく大事だと思うのですが、そういう方々だけでは拾い切れない生のリアルな声というのも常にありますので、ぜひ今後、そういった方々の声を拾うような仕組

みも必要だと思いますので、ご検討、具体化いただきたいと思います。

お風呂の件ですが、災害時のシャワーとなると、すごく狭くなってしまうのですけれども、具体的に要望も出ていますし、そして、銭湯とかですと典型例だと思うのですけれども、かなりコミュニティの核になるし、いろいろな人と話し合えるすばらしいところだと思うのです。だから、なぜこれをコンセプトに入れないのか。入浴施設というのをしっかり位置づけるということが私は大事だと思いますので、ぜひ位置づけていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

銭湯というわけではないです。入浴施設ということです。そこが大事だということです。

それと、熱供給のほうは、環境負荷が低いということは評価すべき点です。そこを否定するつもりはないのですが、同時に、住民の自己負担の問題が相当あると伺っていますので、環境だけではなく、環境はすごく大事ですが、住民負担という点からも、ぜひ検討の要素に入れる必要があると。それは住んでいる方が日々直面する問題でございますので、そちらも含めて検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。そこを伺います。

それと併せて、子どもの意見ですけれども、こんな声も聞きましたが、地域センターのロビーにもともと長椅子があったのですけれども、それが撤去されてしまって、多分、苦情か何かがあったのでしょうか、世知辛い世の中だなと思うのですけれども、そこでわいわい遊んでいた子どもたちの居場所が一つなくなってしまったなという声と、児童センターの閉館時間がもともと夜の8時だったのが、1時間早まってしまったということで、特に中高生の方が使いづらくなってしまったという声も伺っています。

これはすごく大事な声だと思うのですけれども、子どもの居場所というのは一つのキーワードになっているかと思いますが、そういうことを考える上では、今後、子どもの意見を直接聴く場というのをぜひ持つべきだと。これは東京都のこども基本条例もそうですし、子どもの権利条約にも定められていることございまして、全ての施策は当事者の子どもの意見を聴いて決めるべきなのだとということで、これは私は絶対必要だと思っているのですが、そこについて、子どもたちの居場所と言うならば、直接子どもたちの意見を聴く場を設けていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

まずは、気軽にご意見を出せる場ということで、今回につきましては、リサーチの中でフィールドワークなどを実施しながら、地域の中で遊んでいらっしゃる子どもですとか、あとは、憩いの場としてベンチとかに集っていらっしゃるような方々に対しても、委託事業者と一緒に我々のほうでも話を聞いて、八潮地域内にどんなものがあるかというふうな、本当に気軽にお話できるような場を設定させていただいて、そういったところで意見をお伝えいただいているといった取組を、現状でもさせていまして、今後についても、こういったみらいコンセプトを策定しましたということで、いろいろな区のイベントの場とかにも、これまでも私のほうで出席させていただいているようなところがございまして、こういった場で、八潮みらいコンセプトについてもご紹介させていただいて、地域内の方だけではなくて、地域外から見ても、八潮の中にこういったものがあると八潮に足を運んでいただけるのかとか、そういった意見を聴けるような場をつくれればと考えているところでございます。

シャワー設備については、現状でもみらいコンセプトの中には示しておまして、可能な範囲でいろいろな機能を持たせたほうが、日常の使い勝手もよくなりますし、災害時、そこで生活するとなったときにも安心していただけるといったところもございまして、ただ一方で、こういった入浴設備とかを設置するに当たりましては、耐荷重や配管とかというような、ある程度、施設の設備上の制限がかかってくるようなところもありますので、どの範囲で可能なかということも含めて、今後、具体化に向けた



検討を進めていきたいと考えているところでございます。

熱供給の部分につきましては、確かに自己負担の部分については、地域の方からのご要望があるというところは私の耳にも入っているところでございます。私も今回のみらいコンセプトの策定に向けまして、熱供給の八潮支社の支社長とかともお話をさせていただいて、今後の熱供給の在り方みたいな部分についても意見交換をさせていただいているところでございまして、八潮支社の支社長も、住民の方の意見を伺いながら、今後の熱供給の在り方については検討していくといったお話もいただいているところでございますので、こういった事業者と区も連携しながら、こういった在り方がいいのかというような検討をしていきたいと考えているところでございます。

あとは、若者の居場所づくりのところでございますけれども、地域センターの長椅子等々につきましては、ある程度、ほかの利用者への影響といったところも考えて、撤去になったのではないかと拝察するところでございますけれども、地域の子どもの意見からも、夜遅い時間とかにゆっくり勉強できるような場が欲しいとか、親御さんのほうでも、安心して子どもが集えるような場があったらいいねというご意見をいただいているところでございますので、そういった部分も含めて、今回のコンセプトには、次世代の活動が育まれる環境づくりという方向性を上げさせていただいているところでございますので、それらの具体化に向けて、八潮まちづくり事業を進めていくといった考え方を持っているところでございます。

あとは、子どもの意見を聴く場につきましては、先ほども少しお話差し上げましたけれども、今回のフィールドワークの中で、児童センターで遊んでいる子どもですとか、図書館で本を読んでいる子どもですとか、そういった方のご意見、お話を聞かせていただいたというところもございまして、あと、インタビューで10代、20代も含まれますけれども、若者・子ども世代のお話をじっくり聞かせていただくという場も設けさせていただいておりますので、こちらの中で、子どもたち、次世代の活動を担う当事者の方たちの意見も、今回のコンセプトの中には含まれていると認識しているところでございます。

#### ○高橋（伸）委員長

課長、これは所管が違うのですけれども、児童センターの閉館時間が早くなったと、さっき質疑があったのですが、それを分かる範囲で。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

申し訳ございません、児童センターの閉館時間が早まったというところは、私の認識不足のところもございまして、現状で把握しているところではございませんが、ただ、夜遅い時間に若者たちが集まれるような場所がないといったご意見は聞かれているところでございますので、そういった状況も勘案しながら、今後のみらいコンセプトの具体化に向けて、所管として調整を進めていくといったところで考えております。

#### ○安藤委員

いろいろな状況の変化があるということで、今後、子どもたちの居場所については反映していただきたいと思います。

子どもの意見は今回、結構ユニークなやり方で声を聴いているということで、私もいいなと思っているのです。だから、子どもの声を、今までの従来のような感じというよりも、結構大胆というか、工夫しているというか、率直にというか、ずばっとというか、そのように聴いているので、これはこれで子どもの声を踏まえてやっているのだろうなということを、今思いました。これからも様々な工夫をして、子どもの声を聴いていただきたいと思います。

あと、お風呂については、様々な課題はあると思うのですが、ぜひ課題を乗り越えて、念願である八潮地区での入浴施設という、シャワーはもちろんあっていいのですが、シャワーだけではなく、入浴施設の設置、これは必ずコミュニティの核となるでしょう。お願いしたいと思います。

それと、あと2つだけお伺いします。

今後、このコンセプトの案を決定するに当たってでもそうですし、細かい微修正になるかもしれませんが。そういったところとか、あと、今後の事業の検討とあります。具体化、事業の検討をしていく段になっていくわけですが、みらい懇談会に直接参加していなくても、こういう意見を出したいという方が意見を出せるような周知など、あるいは、意見を募集していますよ、あなたの声を聴く場はここですよというところで、ぜひ引き続き聴いていただきたいと思いますが、いかがでしょうかということが一つ。

それともう一つは、今回のコンセプトができると、この委託事業者は多分、お役ご免といいますが、引き続きまちづくりに関わっていただけるのかということのは分からない。その辺はどうなのかということなのですが、何が言いたいかというと、これからこのビジョン、コンセプトの具体化のための活動あるいは施設面には、一定の人材というのが必要だと思うのです。児童センターはすごく子どもと関わる実績がある方が集まっているところだと思うのですが、コンセプトの具体化の活動を支える人的体制の強化も必要なのではないかと思います。その辺については、区はどのように考えていらっしゃるのか伺いたいと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

気軽に意見を出せるような場の調整につきましては、先ほどもお答え申し上げたとおり、今後、コンセプトの具体化に向けていろいろな方の意見を聴けるような場を、私としても設定したいと考えているところでございます。

引き続きまちづくりに関わる人材の確保というところでございますが、こちらについては、今回のまちづくり事業の目的の一つでもございます人材の発掘というものがございます。今回実施したインタビューというのは、まず現状で地域活動の中心になっていらっしゃる方にお話を聞きつつ、それらの活動を引き継ぎ継承していけるような人材の方をご本人に紹介していただくという形で、雪だるま式サンプリングという手法を取っているところでございます。

そのような手法を進める中で、例えば、地域の中でプロの太鼓の奏者として活動されている方ですとか、あと、児童センターでティーン向けのギター教室を実施されている方ですとか、また、プロのデザイナーとして活動されている方というような、いろいろな技能を持っていらっしゃる方とつながることができましたので、今後のまちづくりのビジョンの具体化に向けては、こういった方々にいろいろなイベントとかで企画の中心に入っていただきまして、例えばイベントのフライヤーの作成ですとか、あと音楽イベントであれば、そこの演奏の部分といったところで、今回のまちづくり事業の中でリーチすることのできた方につながっていただきながら、お力を借りながら、イベントを実施していくといった取組を進めてまいりたいと考えているところでございます。

委託事業者につきましては、一応、今年度の委託契約の中で、今回の一番後ろに書いてありますけれども、環境エネルギー政策研究所から3人、今回のコンセプト策定についてはお手伝いいただいたところでございます。

来年度以降は、また新たな令和7年度予算の中で、まちづくりの具体化に向けた検討委託というものを予算提案させていただいておりますので、こういったところを議会にご承認いただきました暁には、

これらのつながりを活かせるような事業者の選定をさせていただきます、今回策定したビジョンの具体化に向けて推進していくような体制を取りたいと考えているところでございます。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○おぎの委員

私からも幾つかお聞きしたいのですけれども、こちらは今の八潮がまとまっていて、状況がすごく分かるのですが、もう少し深掘りして、もし分かったらお聞きしたいのですけれども、子どもがすごく減っているというので、小中学校がありますが、これも今、普通の規模感でずっと回っている状態なのかというのと、20代から流出するというデータが出ていますけれども、品川区で働いている若者とかもすごくいい場所だと思うのですが、あまり若者がいないというのは交通の問題なのか、それともこの団地自体がファミリー向けになっていて、若者が住むようなワンルームとか、そういった設計というのが少ないのか、もし分かればお聞きしたいと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

今のご質問の部分で、まず1点目につきましては、みらいコンセプトのサイドブックス上の資料の6ページ、八潮地区の概要のところをご覧いただければと思いますけれども、先ほどの説明の中で、こちらの6ページの八潮地区の概要の丸ポツの2つ目、1985年の入居完了後、18歳未満の若年層は減少傾向ということでお示ししているところでございます。

実は、ここ数年は年少人口といたしましては、14歳未満の年少人口としては、むしろ増加している傾向にございます。とはいえ、一方で中学生以上になってくると、八潮団地内の部屋の関係で、間取りとして大分狭くなってしまいう状況があります。大きなお子さんがお部屋の中で暮らすとなると、間取りとして手狭になってしまうという状況がありますので、お子さんがある程度の年齢に達した段階で、外に転出されていくという状況があると伺っているところでございます。また、大学進学ですとか、あるいは就職ですとか、お子さんのライフステージが変わられたタイミングで、若者世帯が転出されるという状況があると伺っているところでございます。

なので、学校の生徒数につきましては、こちらも所管が異なるところではあるのですけれども、減っているというよりは、むしろ増えている状況にあると伺っているところでございます。

若者がいない理由については、先ほど申し上げたとおり、間取りの問題が一番大きなところかなというところでございますけれども、現状で八潮地域内にビレッジハウス・マネジメントという民間の賃貸住宅を運営されている事業者が管理している棟が1棟あるのですが、こちらが若者世帯向けに、少し低廉でお部屋をリニューアルして使っていただくといった取組を進めているといったお話も伺っているところでございますので、こういった民間賃貸住宅の取組が進んでいけば、一定、若者層の入居者も増えてくるのかなというところは、所管としては予想しているところでございます。

#### ○おぎの委員

何となく詳細が見えてきた気がしますが、子どもが大きくなると手狭だけれども、かといって、一人暮らしの物件は少ないということです。

先ほど足を運んでほしいとおっしゃっていたのですけれども、区としてはそもそも昼間の人口を増やそうとしているのか、それとも夜間人口が増えるといいなと思っているのか、どちらが狙いみたいなものはあるのですか。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

先ほどの話ですが、ワンルームが少ないということではあまりなくて、そもそも40年前に入居したタイミングでは、ファミリー層として入ってきた層がいらっしゃいます。その方々が40年間暮らし続ける中で、例えば未就学児お二人を連れて地域内に入られてきた方が、お子さんが大きくなって、部屋として狭くなってしまいうので転出されたりとか、あるいはお子さんだけが出ていかれたりというところで、若者世帯が減っているという状況があると聞いているところでございます。

なので、単身世帯向けの部屋数については、そこまで少なくないといえますか、都営住宅とかを中心として、単身用のお部屋も多くあるといったところで聞いているところでございます。

2つ目の質問については、基本的に八潮地域内は、都市計画で、あまり大きな商業施設とかをつくることできないという規定がございますので、どちらかというと昼間人口を増やしていくということで、八潮地域内の魅力を他地区にも発信していったら、八潮地域内の、例えば自然豊かな環境を享受するために遊びに来ていただいたりとか、そういった方を増やしていく、八潮地域に注目していただくといった取組を、今後進めていきたいと考えているところでございます。

### 〇おぎの委員

なるほど分かりました。大きな商業施設を誘致とか、そういう感じではないということですね。

そうしますと、人材の発掘で、リーチすることができた方を活用して、協力して、みんなで盛り立てていくという感じなので、ご自宅でお仕事されている方が最近増えてきているので、そういった方が八潮で会社を自分で、自宅で何かやるとか、専門的な技術がある方とか、そういう方が八潮でお仕事を起こしたりしてくれるといいなと思いました。

今後のコンセプトを踏まえた来年度以降の事業計画というところでお聞きしたいのですけれども、3番の農作業体験を通じた食育事業は、場所はあるのかというのと、地場産品を使ったオリジナル商品の開発はどういったものを予定しているのかというのが、もし何か方向性があればお聞かせいただきたいです。

### 〇今井八潮まちづくり担当課長

まず、農作業体験につきましては、現状でも区有施設のみゆにていづらぎ八潮という施設の中に、畑が既にある状態でございます。こちらは、現状はNPO団体に専有的に使っていただいているような場所ではあるのですが、今後この畑を拡張して、一般の住民の方の参加を募りまして、コミュニティ農園のような形で運営していくといったことができればというところで考えているところでございまして、こちらについては、区の企画部門とも連携しながら、少しずつお話を現状では進めさせていただいているところでございます。

オリジナル商品の開発検討につきましては、コンセプトの後ろのほう、サイドボックスで言うと54ページをご覧くださいければと思いますけれども、右側の辺りにローカルブルワリーのイメージの絵を載せさせていただいたりといったところもございます。今ご紹介いたしました畑以外にも、八潮地域内には柿の木があったり、桃の木があったり、あとはイチゴを栽培していたりといったエリアが複数ありますので、こういった地域で取れる食品を使って、八潮地域のオリジナル商品とかを開発していくと。そういったものをイベントで使用したり、あとは商品化していったらというところで、八潮地域の住民の方のシビックプライドの醸成とか、そういったところにもつながっていくといいなと考えているところでございます。

### 〇おぎの委員

八潮の名産品とかができるといいと思います。

最後に、ジム、コース型運動教室とか、いろいろ計画されていますけれども、八潮は大分、高齢化率も36.5%と高いので、いっそのこと、ここを運動・健康特区みたいにしてしまってもいいのではないかと考えています。公園に健康器具を置いたり、誰でもお散歩途中で筋力トレーニングができたりとか、そういうのはどうでしょうか。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

運動の部分の需要につきましては、過去に行われた八潮地域のまちづくりのアンケート、住民の方に対してどういった施設が必要ですかといったアンケートの中でも、気軽に運動できるような場所が必要という回答を多くいただいているところでございまして、そういったニーズがあるということは、区としても把握しているところでございます。

今回、ビジョンにお示ししたとおり、スポーツジムですとか、スタジオ、運動教室の実施などについても、来年度以降の事業計画の中で具体的に検討しているところでございますので、まずはこういった部分を通じて、八潮地域の住民の方に、気軽に運動できるような場を提供していくといったところにつきまして、着実に進めていきたいと考えているところでございます。

#### ○三井スポーツ推進課長

運動のほうですが、八潮の場合、大井ふ頭中央海浜公園がありますので、そちらでスポーツ推進課では、ホッケーメインで大井ホッケー競技場をよく使っていますので、もしそういうのが進んでいった場合、また八潮のほうと連携して進めていければと思っております。

#### ○おぎの委員

お年寄りも元気に健康に過ごせるよう、ラジオ体操とかで盛り上げていったり、小さくできることとかもあると思いますので、ぜひ進めていっていただきたいと思います。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○ゆきた委員

今回のコンセプトについて、案ではなくて、方策に決まっていた際に、方策を、ディスカッションとかに携わった方々に対して、どのように知らせていくかというところを教えていただければと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

こちらの案が固まりましたらば、まずは先ほどご紹介差し上げました八潮みらい懇談会の中でお示するという形で、自治会連合の会長ですとか、防災協議会の会長、青少年対策地区委員会の会長ですとか、既存の地域団体の代表の方にもきちんとご説明差し上げて、具体化に向けてご意見をいただいくといったところは、現状で考えているところでございます。

あわせて、委員からご指摘いただきましたとおり、いろいろな方にきちんとご説明するというところが必要だと考えておりますので、区のいろいろな会議体ですとか、イベントの場に私のほうでお邪魔させていただきまして、こういったコンセプトが定まりましたというところでご紹介させていただくといったところに努めてまいりたいと考えております。

#### ○ゆきた委員

各種の代表の方々にはもちろんですが、地域のママさんとか、高齢者の方々とか、きめ細やかな方々に対しても発信というところをぜひお願いできればと思います。

あと、もう1点ですが、前回の八潮地区まちづくりの事業報告では、基本的には地域活動の持

続性とか担い手の発掘とかといった、ソフト面について検討しているとあったと思います。今回の資料を見て思いましたが、サードプレイスの場が欲しいとか、多世代交流の場が欲しいとか、子ども・若者の居場所、集まれる場所が欲しいとか、そういうニーズに応えていくには、実際に事例の一つとしてここにも挙がっているのを見たのですが、武蔵野プレイスとか、私も何度か行っているのですが、こういう場にしていくなると、どうしてもハード面の大胆な整備というのにも必要になってくるのかなと感じますが、そこについてのお考えについてお聞きできればと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

子育て世帯の意見聴取につきましては、例えば去年の11月に開催されました子育てメッセといった場にも、私のほうで出席させていただきまして、八潮地域内だけではなくて、品川区区内全体の子育て世帯の方と意見交換をさせていただいた経緯もございますので、来年以降もそういった場にお邪魔させていただきまして、こういったコンセプトを紹介しながら、まさに今、子育てに取り組んでいらっしゃる方々の意見を聴取するような機会づくりといったものに取り組んでまいりたいと考えております。

ハード面の大胆な整備といったところでございます。こちらについては、企画・財政部門との調整もある程度必要になるといった現状にありまして、まずはこのビジョンの施設例としてお示ししたような内容の中で、例えばトライアル的に、スポーツジムであっても週に1回ですとか、そういった形でモールスタートで実証実験を図っていったら、そこで一定、効果検証が積み重なっていけば、こみゆにていづらぎの大胆な改修とか、改築とかというところにつなげていけるのかなとは考えているところでございますけれども、現状、まずはどういったニーズがあるのかといったところですか、実際にそういったものを実施したときに、どのような効果が得られるのかという効果検証に努めてまいりたいと考えているところでございます。

#### ○ゆきた委員

試行していく中でというので、提案ではなくて恐縮ですけれども、こみゆにていづらぎに行った後に、その中でカフェして帰ろうとか、八潮図書館が今度新しくなったから、そこで学習した後にカフェもして、少しゆっくりしてから帰ろうとか、八潮の方々が聞いてすばらしい方策だなとわくわくするようなものがあればと思いますけれども、まちづくりの所管にも渡ってしまうと思うのですが、その辺については、並行して連携を取りながら進めていただければと思いますので、その辺について最後、お聞きできればと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

まさに委員にご指摘いただきました、各事業の回遊性ですとか連携といったところは、意識していかないといけないと考えているところでございまして、幸い、八潮地域の中で今年の5月には子育て施設が開設されるといったところもございまして、八潮地域内で様々なスポーツイベントとかも開催されるといったところもございまして、各所管と連携させていただきながら、子どもですとか、スポーツですとか、文化ですとか、そういったいろいろな施策が連携して相乗効果を生めるような事業を、今後も進めていきたいと考えております。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○せお委員

完全に私の視点ですけれども、いろいろな方のご意見、地域住民の方を中心として、意見の集約の仕方とか、すばらしいなと思って拝見していたのですが、1点、バリアフリーだとか、ユニバーサルデザ

インだとか、そういったところはまず意見が出なかったのかなというところと、完全に私が見ている中では抜けてしまっているなというのがあって、私も児童学園が八潮にあったときに結構通っていたのですが、こみゆにていぶらざとかもデザインが悪いみたいな書き方がされていましたが、本当に行きにくくて、ベビーカーとかも、通れないわけではないのだけれども、ガタガタするから通りづらいとか、結構そういう場所があって、そこにも目を向けてほしいなと思ったのですが、その辺はどういう方向性になっているのかというのを教えてください。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

インクルーシブなまちづくりといった視点での検討というところでございますが、確かに委員ご指摘のとおり、現状で直接的な表現として、このコンセプトの中に反映できていないというところについては、まずは調整が必要かなというところは考えているところでございます。

一方で、八潮地域の中には、日本初の私立の聾学校である明晴学園が存在しているということもございますし、あとは医療的ケア児を預かる保育園とかも存在しているといったところもあります。あるいは、福祉面に目を向けますと、重症心身障害者通所施設のピッコロが存在しているといったところもございますので、日頃から生活する中で、障害をお持ちの方も、お持ちでない方も、あるいはご高齢の方も、子育て世帯の方も、いろいろな方が生活しやすいようなまちづくりというのは、皆さんも意識されているところかなとも感じているところでございますので、こういった様々な当事者の方同士の意見交換の場といったところも、八潮まちづくり担当としていろいろな場で設定させていただきながら、今後の八潮まちづくりを進めるに当たって、よりインクルーシブな、誰もが生活しやすいまちづくりといったところを実現していきたいと考えているところでございます。

#### ○せお委員

多世代、多文化とあるのですけれども、障害とか、高齢者の視点で見ただけであれば、少しはバリアフリーとかユニバーサルデザインというところが出てくるとは思うのですが、その面も、本当に障害者施設も多いですし、目を向けていただいて、障害者も含めたみんなが交わる場みたいなのがこれからできてくるといいなと思っています。

先ほどお話があった子育て支援施設も、この前、工事監査で見させていただいたのですけれども、そこも子育て世代だけではなく、周りにある施設とも共存してほしいというのは考えていましたので、その辺も全部含めて、一体的に考えていただきたいというのは要望させていただきます。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○石田（し）委員

まず、背景の中にもいろいろ書いてあるのだけれども、八潮団地というのは誰が管理しているのか。結局さっきの話でも、道もそうだし、自然も行き届いていないみたいな話が出てくるのではないですか。八潮団地全体の敷地内で、一体誰が道路だったり自然だったり、そういうのを管理されているのかを1点お伺いしたいのと、あとは、背景の中で、いろいろなところが入ってしまっていて、なかなか一体としてまちづくりを検討するには至っていないと見ているのですけれども、品川区が単独で何かをできるのはどこがあるのですか。要はこの中で、例えば学校だったり、こみゆにていぶらざの施設だったりするのでしょうかけれども、区が単独でできるのは、大体八潮団地の割合からするとどんなものなのか。

基本的に、住宅がもうあるわけです。住宅は全部、ほかの人たちが管理しているわけだから、区が持っているものではないわけです。ということは、公共施設の中でどのくらい、団地内の割合としてあ

るのかというのを教えてください。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

管理者の件につきましては、非常に地域の方も悩まれているところでごさいます、結論から言うと、それぞれの事業者で所有している土地は、その事業者が管理しているという状況でございます。ということで、全体の管理者というのはおらず、それぞれの所有権に基づいて、それぞれが管理している状況でございます。

区単独で何かまちづくりを進められる部分というところで言いますと、先ほどお話しいただきましたこみゆにていぶらぎですとか、八潮地域センターですとか、区として持っている公共施設ですとか、あるいは学校、それから区立の公園ですとか、あとは図書館ですとか、児童センターといったところで、区として管理している施設、建物といった部分につきましては、区単独で事業計画等を立てられる部分かなと考えておりますが、こちらの部分については、八潮全体の面積から考えると、そこまで大きくない部分になっております。

#### ○石田(し)委員

まず、そこではないですか。まちづくりをいろいろやろうというのは分かるのですけれども、いわゆる管理が一体的でない。もちろん個々でも所有権があつて、それぞれでやろうよという、結局その範囲だけになってしまうのではないですか。なので、権利者はそんなにいないわけでしょう。分譲の人はもちろん所有権を持っていたりしても、各棟で持っている人たち、例えば東京都の住宅局があつたり、URがあつたりという、そこは管理者が何件かしかないので、管理者同士で一回、まち全体の管理をどうするかというのを話さないと、何かをつくっても、結局そこは品川区が担当なのだから品川区でやってとなってしまうと、一体感は生まれません。

なので、そこは整理してやっていくのが必要で、それはしようがないから区がリーダーシップを取ってやるしかないのかなと思うので、担当課長は大変だと思いますが、少しそういうのも含めて進めていくのがいいのかなと、まずまちづくりについて1点。

このコンセプトを踏まえて、いろいろ事業をやっけいこうよというのですけれども、これを見ると、八潮団地は40年が経過して、この後どうしようかというのがもう少し遠い未来に出てきます。その遠い未来に向かって、「延命していきましょう」にしか見えないのです。例えば入浴施設をつくるのもいいし、何か施設をつくるといっても、カフェをつくるのもいいですけれども、その時々だけの部分になってしまうのかなと思って、先ほどおぎの委員から少し話が出たけれども、僕もこういったまとまったエリアなのだから、それをもう少し有効的に活用したほうがいいのではないかと。

例えば広町もそうで、広町も今、割と大きいスペースで開発が進んでいるけれども、例えば荏原地区で同じようなまちづくりができるかといったら、できないわけです。戸建てが非常に多いから。権利者も多いし、よほど何かがない限り、大きいまちづくりというのはできないと思うのだけれども、八潮に関しては、ある一定の大きいスペースがあるのだから、だからこそできるまちづくりがあるわけです。だからもう少し、おぎの委員が言ったように、特区ではないけれども、何かに特化したまちづくりのコンセプトを持ったほうが人は集まるだろうし、活気も出てくるのではないかと。

例えば先ほど、ビレッジハウス・マネジメントが1棟やっけいて、子育て世帯を安価で入れたりする。それだったら、例えばその1棟を区も補助して、未来に向かって非常にハイテクな住宅にしてしまふとか、例えば八潮団地内は、今、静岡でトヨタがいろいろとまちづくりを工場の跡地でやっけいますけれども、社員を入れて、非常にハイテクなことをやっけおうとしているわけです。ここでそういうことができ



るわけです。

例えば今、コミュニティバスとかいろいろ出ているけれども、僕はコミュニティバスを今頃検討と言っている、もう周回遅れだと思っていて、八潮団地だったら、例えば自動運転とか、実証実験を含めていろいろできます。八潮から大井町だったら、結構いろいろな実験も含めて、今後の将来的な品川区にとっても、いいまちづくりのモデル実施というのができると思うのです。

だから、例えば区のDX化と言うけれども、僕はそれこそ、そういうハイテク住宅みたいなのをリフォームでつくってしまえば、そこに子育て世帯をどんどん入れて、まちの活性化をして、先ほどの話に出ていたけれども、お子さんが大きくなったら出ていくというのは、それまでの間頑張って、お金をためてもらったりして、違うところにきちんと一軒家をつくるとか、家を買ってもらったりとかして、しっかり品川の住民になってもらう。そういうもう少しつながるビジョンを持ったほうがいい。僕から見ると、これはどうしても延命措置にしか見えなくて、もう少し踏み込んだことをやらないと、人は集まってこないと思うのです。

そこで、区としては、先ほど少しお話ししましたけれども、地区内で完結をさせるためにまちを活性化させようとしているのか、それとも、いろいろな人に八潮団地に来てもらってまちを活性化したいのか、どちらの方向性で今動いているのか、まず教えてください。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

委員にご指摘いただきました、エリア特性を活かした方向性を持ったまちづくりといったところでございます。

こちらについては、その場しのぎのものではなくて、今後も未来につながっていくようなまちづくりを進めていきたいという思いは、所管としても持っているところでございまして、現状で、例えば、まだ調整段階のところも含められるところではございますけれども、今現在品川区で、しながわシティラボの取組の中で、先端技術とかを活用して、品川区内の例えば八潮のフィールドを活かして社会実験として活用していただいて、その取組を品川区内全体に広げていくといったところに資するような事業をしているといったところで、企画部門ですとか、環境課とも連携しながら、そういった先端技術を取り入れながらといったところも進めているところでございます。

八潮地域については、ご紹介いたしましたとおり、豊かな自然環境といったところを強みとして持っているところもございますので、こういったところと、先ほどの先端技術といったところをうまく絡めていきながら、外から見ても魅力のある施策、注目してもらえるような施策というものを、今後具体化していきたいと考えているところでございます。

そういった取組を今後広げていくことで、八潮地域の魅力が地域外にも広がって、地域外の方も八潮に遊びに来ていただいたりとか、新たな入居者として入っていただくといった取組も目指して、今後も進めていきたいということで考えているところでございます。

#### ○石田（し）委員

ぜひそういったものも含めて、例えば、先ほど少し出たけれども、福祉面が充実しているのだったら、僕は福祉のまちとして病院を誘致して、そこで福祉を充実させる。高齢者もいっぱいいるのですよね。そうしたらそこで、ある一定の福祉の充実というのを図れるわけです。特養ホームもいいし。もう少し遠い未来を見て逆算をしていって、今何をやらなければいけないかというのをやっていくということが大事だと思うので、ぜひその辺は、僕は例えば八潮地区を4つに分けて、一つは福祉のまち、一つは、さっき自然が1点だったら、都市農業をやる。一つは非常にハイテクなまちにする。一つは、例えば今

の課題として、子育て支援だったら子育て支援のまちにする。すごいまちになってしまうではないですか。

わくわくしますよね。そういうことだと思うのです。なので、僕は八潮というのは、品川区内で非常に可能性のあるまちだと思っています。もちろんそこには住民もいて、その人たちの理解も必要だから、一緒になってやらなければいけないし、それを誰がやるのかといたら、僕は多分、担当課長だと思うのです。まとめ役として、課長がリードするしかないと思うのです。それは東京都とも話をしながらやっていくし、こういったほかの管理者の人たちとも話をしながらやっていくと。

そのきっかけは、僕はまず、今聞いている限り、管理がスタートではないかと思うので、そういうのを皆さんとやって、まず管理から連携づくりみたいなのをやっていけばいいのではないかと思うので、ぜひその辺を含めて、もう少し斬新なというか、未来に向かって、大きいプロジェクトを大きな目で進めていただければと思うので、その辺でもし何かあれば、ご答弁いただければと思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

今後の大きな八潮のまちづくりに向けて、諸所の調整をこれから、区が主体となって進めていきたいと考えているところでございます。

現状では、そういった大きなまちづくりを進めるに当たっては、各事業者の協力というものが不可欠になってまいります。現状でも、都営住宅の管理者である東京都の住宅政策本部ですとか、あとは住宅供給公社といった事業者と、区のほうで意見調整、意見交換をするような場とかも持っておりますし、今後はもう少し情報連携を密に取れるような体制づくりといったところも進めてまいりたいと考えているところでございますので、引き続き努力してまいります。

#### ○石田（し）委員

ぜひ頑張ってください。

最後に1点だけ、外国人が増えているという話ではないですか。今いろいろな地域で、外国人の対応というか、結構課題があって、僕も具体的な統計を取っているわけではないけれども、僕のイメージですが、団地は一つのコミュニティになりやすいのです。日本人もそうなのだけれども。ここに外国人の方たちが何人か入ると、その後、その人を頼って来てしまうのです。来てしまうというのは表現があれだけれども。

そうすると、一つのコミュニティができて、それはもちろん、いい面もあるし、今、様々な社会課題になっているようなこともあるので、その辺は早い段階で、ある程度察知をして、それなりにというか、対応をどのようにやっていくかというのを考えておかないと、何かあってからでは遅いので、そういうのを含めて、いろいろな部署とも連携をして、例えばもちろん警察もだし、地域の方たちもそうだし、そういうところと連携して、ぜひその情報を取りながら、また、今住んでいる方たちとコミュニケーションを取って、日本の文化はこうだよというのをきちんと伝えながら、日本人にも、外国の方たちの文化はこういうのもあるよと。だから、お互い本当に共存ができるように、情報をきちんとコミュニケーションを取ってあげないと、課題が出てきてしまう。

僕は一つ、この八潮の中で懸念はそこがあるので、そこはぜひやっていただきたいと思うし、もし仮に、さっきのまちづくりの話で、逆に外国人がいっぱい魅力を感じて、来てもらっているのだったら、僕はそれを逆手に取ってというか、インターナショナルな品川のまちみたいなので、一つ国際都市みたいなのを形成するのも、僕はありだと思うので、そういった意味でも、共存ができるような体制づくりというのは、ぜひいろいろな部署と、これは多分関わってくると思うので、連携して対応していい

ただきたいと思うので、そこは改めて、要望ですけれども、よろしくお願いします。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○藤原委員

八潮地区担当の課ができて、まだそんなに何年もたっていない中で、このように、まだ案ですけれども、まとめ上げて、コンセプトとしてまとめたことに、担当課長に敬意を表します。心からそう思っています。

質問させていただきますが、まず、人口データで見る八潮地区のところに、品川区全体と八潮地区というようにグラフが出ています。このグラフですが、八潮は高齢化率が36.5%です。でもグラフを見ると、児童のところは低いけれども、いいピラミッド型になっていると私は思うのです。逆に品川区が、団塊の世代が物すごく広がってというグラフなのだけれども、これは間違いないのですよね。改めて確認するのは、このグラフだけ見ると、確かに少子化なのだけれども、八潮地区がきれいなピラミッドになっているのではないですか。これは間違いないのですよねという確認を、まず1点、していいですか。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

こちらの資料については、すみません、内容も含めて確認をさせていただければと思いますが、ベースとなっておりますのは、品川区の統計のデータということになっております。〔同日後刻に「品川区全体と八潮地区の表示が逆転してしまっている。」と発言あり〕

#### ○藤原委員

高齢化率が36%とか、4割近くて、こういうグラフになってくるのかなと素朴に思ったので、伺いました。

今回このアンケート調査を見て、地域の方の意見を聴くというのは大事ですね。アンケートというのは大事だと、調査は大事だということを思いました。昨日に続いて、調査は大事だと。

この調査にのっとって質問させていただきますが、八潮地区の魅力で、商業施設や娯楽施設などがあり、にぎわいがあるというので、そう思わないという方の数字が多いです。やはり八潮というのは、品川区においても独特な地域だなと、私もまず思うのです。

私は思っています。何をかという、いずれ地下鉄でも、八潮駅というのできるのではないかと思っていました。昭和の終わりぐらいに八潮ができたわけです。これは西暦で出てしまっているけれども、まだ昭和でした。だけれども、そのときから入っている方と少しお話をしたときに、八潮に駅ができるのではないかという思いがあったというのも伺ったのです。

今日のアンケートを見ると、八潮に駅をつくりましょうという話はあまりないではないですか。あまりないというか、出ていないです。でも、八潮の発展は、あそこの地下を、例えば羽田から持ってきて八潮に行って、臨海部分に行くとか、大井町に行って大崎へ行ってとなるか、やはり駅というのは絶対に大事だと思っています。

よく視察に行きましたというところにおいて、たしか八潮だと思うのですが、同じ団地で、高島平という話が出るけれども、高島平団地の目の前は、都営三田線の駅です。だから、やはり発展には駅が必要なのです。電車が通ることが大事なのですけれども、あまりにも大きい話になってしまうから、今回のアンケートには出てこなかったのかもしれないけれども、これから何十年後、100年後とかということをもし考えるのであるならば、これは大事だと思って、何かで出てくればいいと思っています。

というのは、八潮地区の魅力のところ、立地がよく将来の発展性があるというのが、そう思わないほうにグラフがなっているのではないですか。やはり駅というのは大事だと思うので、でも、あまりこのアンケートには出てこなかった。駅を新設でつくってくださいというのは出ていないです。その辺もどうなのかなという思いがあるので、そこを、まず担当課長、答えてください。

それと、文化観光戦略課長。八潮は、商業施設とか娯楽施設などがありということもマイナスで出ているのですけれども、課長が考える八潮における文化観光というのはどういうものですか。文化観光戦略なのだから、どう思いますか。

それと、スタートアップの課長に伺いたいのですけれども、ここに課題が出ています。地区内に働ける環境がないと。だったらスタートアップして、創業支援、品川区にはいっぱいあります。創業支援センターを八潮につくればいいのではないですか。どうでしょうか。そこで創業支援をしてと思うのです。というのは、品川区は中小企業のまちだと。昨日も出ていたけれども、八潮は、細かく調べればあるのかもしれませんが、フリーランス、個人事業主はいらっしゃるかもしれないけれども、中小企業はどうか。

でも、さっき石田しんご委員が言っていたけれども、地区ごとに光るものが出てくれば、何かわくわくするのではないですか。そういう意味で、創業、スタートアップとかをやるべきだと思うし、あと、子育ての施設をつくるのですよね。子育て支援施設を、戻って今井担当課長。

でも、そうしたら私は、八潮保健センターとかをつくるべきだと思っています。というのは、八潮の方たちというのは、保健センターを利用する時は北品川まで行くわけでしょう。これは大変だと私は思うのです。保健センターの大事さというのは、部長はよくご存じですよね。大きい保健センター、小さい施設の、でも、小さい保健センターでも大事だということは、部長は過去の経験からよく分かっていますよね。そういう意味において、どうなのか。

それと、八潮みらいコンセプト案というこれを見たときに、橋が架かっています。この橋に、もちろん防犯カメラはあるのですよね、生活安全担当課長。というのは、八潮で何かあったときに、連続性が大事なのに、何個か架かっている橋に防犯カメラがなければ、運河から船か何かで行かれてしまったら、連続性が止まってしまうのではないですか。

このアンケートでも、きちんと出ています。夜道が暗く、緑が鬱蒼として、一人歩きなどに不安を感じると。だから、安心・安全を守るというのは、これだけではないけれども、防犯カメラの効果というのはもう立証されているわけですから、その辺についてはいかがでしょうか。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

まず、新駅の設置についてでございますけれども、現状で、報道ベースではありますが、記憶の範囲になりますけれども、2031年の開業に向けて羽田空港新アクセス線の整備の検討が進んでいるというお話は認識しているところでございまして、それに合わせて、品川区内に新駅を設置できるかという可能性の部分も含めて、都市計画課で調査をしているところを、私としては認識しているところでございます。

新駅の整備等が具体化されれば、そういったところで八潮地域のアクセシビリティが向上していくところもありますので、そういったものが実現した暁には、そこから八潮地域内に足を運んでいただけるような動線の確保とか、こういったところも含めて、今後検討していければとは考えております。

ただ、地域の方の意見としては、現状の地域環境に対して愛着を持っていらっしゃる、新たな層が入ってくることに對して、若干抵抗感を持っていらっしゃる方というのも複数いらっしゃる。住環境が

大きく変わってしまうということに対して、抵抗感を感じていらっしゃる方というのかなりいらっしゃるという認識でございまして、それもあって、新駅の設置を具体的に要望するといった動きには、なかなかつながっていないという状況があることを認識しているところでございます。

もう1点の子育て施設については、申し訳ありません、これは所管が子ども育成課になりますので、私のほうではこの内容についてのご答弁は差し控えさせていただきたいと思っておりますけれども、今日いただいたような子育て支援施設の充実ですとか、あとは保健センター的な機能を八潮地域内にというところについては、所管課に私から伝えさせていただければと思います。

#### ○大森文化観光戦略課長

商業施設や娯楽施設のにぎわいというところがマイナスに出ているというところのご質問についてですけれども、確かに八潮地区の中には、あまり娯楽施設といったものはないのですが、こみぷら八潮が、近隣住民の方々というか、近隣区の方々への娯楽というところからすると、こみぷら八潮内の音楽室で音楽活動をしたりとか、地域交流室でダンスをしたりとか、外の面から言いますと、勝島の海等でバーベキューやハゼ釣りができますよと。そういったところで、夏場はバーベキューを活用する方が、八潮の交通センターのほうというか、競馬場の向かいのほうになるかとは思っておりますけれども、そういったところの部分で娯楽を楽しんでいただくというところがあるかなと。

あとは、水辺の関連ということで、栈橋等はないのですが、あぁいったところをしながら水族館につながるルートとして使っていただいたり、その中にモノレールが走っている環境ですとか、自然の多い環境といったところは魅力になるのかなと思っております。

あとは、観光面としては、大井競馬場ですとか、シアターもできているというところもありますので、勝島になってしまうのですけれども、そういった面で八潮を盛り上げていくというところを考えていくということかなと思っております。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

八潮地区における創業支援施設の設立についてでございます。品川区は今現在、5つの創業支援施設を持っておりまして、これは23区の中でもトップクラスを誇っています。そういったところで、創業支援施設の増設ということは、現状考えておりません。

ただ、八潮地区は、先ほど八潮まちづくり担当課長や委員からもお話がありましたように、自然だとか土地という、すごくポテンシャルがあるところだとは認識していますので、例えばスタートアップの実証支援の場で利用していただくとか、また、企業誘致といったところで、八潮という場所があるということを利用してスタートアップですとか創業者にはご案内するようにしていますので、そういったところで、八潮まちづくり担当と連携を図っているところでございます。

#### ○河合生活安全担当課長

橋の防犯カメラですけれども、基本、区で助成している防犯カメラ等はないと認識しております。橋全てについて、そこになれば線が切れるということでもありませんので、出入りのところの事業者とかにもついている場合がありますし、そういったことを含めて、線が切れるようであれば、警察の要望等も踏まえて検討する形になると思います。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

申し訳ございません、先ほどの藤原委員ご指摘の資料、サイドブックスの7ページの人口データで見る八潮地区の、品川区全体と八潮地区の人口のグラフでございます。品川区全体と八潮地区の表示が逆転してしまっております。大変申し訳ありませんでした。

公表用の資料等につきましては、所管のほうで差し替えをさせていただければと思っております。大変申し訳ございません。

#### ○藤原委員

担当課長、今日、あえていろいろな課長に質問をしました。所管があるのも分かっていますけれども、せっかく八潮のまちをどうしていこうかと言って、ずっと八潮の団地ができてから八潮の担当課があったわけではありません。八潮の担当課ができたのは最近です。

だから、所管があるのは分かっているのです。さっきもおっしゃっていたけれども、保健センターは所管違いですか、それは分かっています。だけれども、縦割りではなくて、八潮というまちをどうしていこうかという形で担当課長になられて、担当課ができたわけですから、いろいろな方たち、いろいろな課と協力して、八潮をどのようにしていこうか。それは今井課長が中心となってやっていってもらいたいという意味で、文化観光、スタートアップ、商業、それと安心・安全、そういう形で、スポーツは八潮にあるのは分かっていますから、振ったわけですから、今井課長は八潮を、せっかくその所管になられたわけですから、どのようにしていくか。

このコンセプトも本当にすばらしいと思います。だから、どうやっていくかということ、いろいろな課をまたがっても、今井課長が中心となって、八潮がこれからどうなるのだというふうにしていってもらいたいという思いで、今日、違う課長にも質問をしましたので、最後に、その辺の思いを酌んでくださるのであるならば、自分の思いを言っていただけますか。

#### ○今井八潮まちづくり担当課長

委員ご指摘のとおり、八潮地域については、あらゆる事業者が存在しているような地域になっております。その中で活動している団体も、自治会をはじめといたしまして、様々な性質ですとか活動内容を持った人たちがいらっしゃるといったところで、いろいろな多様な意見が出される場というところで認識しているところがございますので、こういった意見を集約して、所管の部署につないでいくといったところが、まずは八潮まちづくり担当として大きな業務なのかなと認識しているところがございます。

それらの意見は、地域振興部内部で終わるものはほとんどなくて、道路の話であれば、都市計画部門につないでいく必要がございますし、文化観光の面ですとか、スポーツの面ですとか、また、子育ての面、母子保健の面といった様々な問題が絡んでくるといったところは、私もこの所管に配属されて実感しているところがございますので、そういった地域の要望を集約し、しかるべき部署につないでいくといった調整役としての役割を、今後果たしていきたいといったところで考えているところがございます。

私がそのような役割を果たすことで、区の行政資源なども十分に活用しながら、今後の八潮のまちづくりを区として全力で進めていくといった動きにつなげられればと考えているところがございます。

例えば、事例の紹介になってしまうのですが、最近八潮地域の中で、大型のスーパーが一時的に閉店するといったトピックがありまして、八潮地域内は高齢者の方が多くお住まいですので、近隣のスーパーが閉まってしまうと、買物が困難になってしまうといった状況が発生するといったところで、その対応を自治会連合会の会長と私で協議させていただきまして、区として、既存でそういう取組がなかなかないといったところもありましたので、例えば福祉部門とも連携させていただいて、福祉部門のほうでお知り合いだったり、移動販売の業者の方とかも少し紹介させていただいて、話をさせていただいたりといった取組を含めて、地域の意見を調整して、しかるべき区の所管とつなげてというような取組は、現状も進めさせていただいている状況もございますので、こういった取組を今後も積極的に進めていければと考えているところがございます。

## ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

## ○吉田副委員長

様々、皆さんからの質疑でだんだんイメージが分かってきたのですけれども、私からは1点、これまでのお話の中で、例えば若者の居場所がないとか、それから、区民農園とかそういうものがつくれたらいいとか、いろいろな事業のイメージを今考えておられるのかなということは分かったのですけれども、担い手の掘り起こしという言葉は何回か出てきたと思うのですが、担い手の担い方というか、あくまでこれから考えられるようないろいろな事業は、区が主導で進めるというか、区が事業主体になるのか、それとも、それこそスタートアップではないのですけれども、そこで市民事業なり、そういう形で事業の担い手を探していく感じになるのか、その辺を伺いたいと思います。

## ○今井八潮まちづくり担当課長

結論から申し上げますと、今後の事業を主体的に担っていただくような人材を、区として発掘し育成していくといった取組を進めていきたいと考えております。

単発で事業が終わってしまっただけでは意味がないので、こういった事業をきちんと責任を持って、企画から最後の締めのところまで実行していただけるような方を育てていきたいというところで、最初の部分については区が伴走しながら、いろいろな企画の部分ですとか、あとはスケジュールの立て方ですとか、そういったところを細かくアドバイスしながら、将来的には自走できるような形で事業を整えていただくといったところで考えているところでございます。

## ○吉田副委員長

そこがすごく気になっていて、私はずっと、議員になる前は市民事業の立場でいろいろなことをやってきて、その継続というのがすごく難しいのです。難しいけれども、うまくやれば、本当の意味で継続できるのは、私は市民事業だと思っていて、市民事業という、最初の頃はすごく誤解されて、NPOとかは営利ではないのだから、経費を生み出すような事業をやってはいけないみたいな誤解があったのですが、NPOでも運営にお金は必要だというのが、最近はやや理解されるようになったと思うのですが、その辺の最初の立ち上げのところはぜひ、それこそスタートアップになるのか、まちづくりになるのか、伴走していただきたいと思うのです。

将来的にはあなたたちが、あとは自由にまちづくりを描きながら担っていくのだということ、ぜひ進めていただきたいと思ひますし、先ほどゆきた委員から、このコンセプトの説明をどのように地域の中でされていくのかというときの説明の中にも、その辺の視点をぜひ、どうしても区がやってくれるのだと思ってしまうところもあるので、その辺を市民事業、自分たちの事業にしていってほしい、豊かな未来が描けるよと。そこに区が何らかの形で、必要などころの支援はするよというような説明をしていていただきたいと思うのですけれども、その辺についていかがでしょうか。

## ○今井八潮まちづくり担当課長

今後の八潮まちづくりの中で、様々なイベントとかを企画していただくに当たっては、もちろん最終的には自走していただくといったところを前提に、区としても支援をしていきたいとは考えているところでございまして、コンセプトで言うと、サイドブックのページ数で言うと53ページになります。こちらのビジョンの作成のページでございまして、この中の3番の、「次世代の活動が育まれる環境づくり」のところの、施設例の右側に、地域活動コンシェルジュという言葉を入れさせていただいております。

こちらは、足立区であやセンターという施設があるのですが、そちらを今年度、区としても視察に行かせていただきまして、こちらの施設では、何か企画をしたいといった住民の方がいらっしゃったときに、そこで行政と、あとはそういったイベントに対して深い知見を持った委託の事業者の方が、イベントの立て方ですとか、広報の仕方ですとか、あるいはお金の集め方だとか、あとは、今後のイベントの継続性みたいな部分に関して、きちんとアドバイスできるような場を設けていらっしゃるといった取組をやっていらっしゃいます。

こういったところをイメージしながら、新たにイベントの芽が生まれたときに、それが単発で終わらないような、継続性を持って実施していただけるような支援を、区としてもしていきたいという意味合いを込めて、こちらの表示を入れさせていただいているところがございますので、こういった部分については今後意識しながら、まちづくり事業として取り組んでいきたいと考えております。

#### ○吉田副委員長

分かりました。ぜひそのように進めていただきたいと思います。

余計な話ですが、私は20年ぐらい前に、21世紀になるときに幾つか事業を立ち上げて、20年後なんて、私たちはいるかないか分からないよねとか言いながら、お金を出し合って始めたのですが、出したお金なんて、本当にうまくいくかどうか分からないのだし、ある意味、寄附してもいいやと思うぐらいでやったのですが、何と20年たったら、全部事業がきちんと回り出して、出したお金がみんな償還されたのです。

やはり市民事業はすごいなと思っていて、もちろん、そのいろいろな方の協力があつたし、行政の協力もあつたと思うのですが、ぜひ八潮もそういう形で、八潮が将来的にはどういう形であれ、地域の方たちの思いがかなうような形の事業で自走していただけるように、その辺の仕掛けはぜひ区としてやっていただきたいと思います。この辺は要望にとどめさせていただきまますし、今後もしっかり見させていただきますので、よろしく願います。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

よろしいですか。

ご発言がないようですので、以上で本件および報告事項を終了いたします。

---

## 2 その他

### (1) 議会閉会中継続審査調査事項について

#### ○高橋（伸）委員長

次に、予定表2、その他を議題に供します。

まず、(1)議会閉会中継続審査調査事項についてでございますが、配付の申出書（案）のとおりでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

#### ○高橋（伸）委員長

それでは、この案のとおり申し出ます。

---

### (2) 委員長報告について

#### ○高橋（伸）委員長



次に、(2)委員長報告についてでございます。

昨日の議案審査の結果報告については、正副委員長にご一任いただけますでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

#### ○高橋（伸）委員長

ありがとうございます。それでは、正副委員長でまとめさせていただきます。

---

(3) その他

#### ○高橋（伸）委員長

最後に、(3)その他を議題に供します。

その他で何かございますか。

#### ○三井スポーツ推進課長

私からは、デフリンピックについてご説明させていただきます。お配りした資料をご覧ください。

こちらは東京都のプレス発表の資料になるのですが、2月14日に発表された内容となっております。こちらの裏面をご覧くださいいただけますでしょうか。

既に昨日も話しがあつて、皆さんご存じかと思いますが、2番の競技会場等についてということで、表の競技会場等の1番、陸上の競技名の（ハンマー投げ）のところで、右側の会場に、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場と記載されております。こちらは急遽、競技会場が追加されたということで、東京都から発表があつたところになります。

昨日、競技会場が追加された経緯というお話がありましたが、会場の調整は区ではなくて、東京都でやっております。区のほうに特に事前協議があつたわけではなく、実際プレス発表の直前に、区のほうには、一応このように決まったのでと連絡が来たところになります。特に会場が決まったとあって、会場運営等は全部、こちらでやるものは全くありませんので、品川区としては啓発に努めていくということになります。

こちらはまだ発表されたばかりになりますので、大会の啓発に当たっては、区としてどう関わっていけるかなど、これから検討を進めていくような形になりますので、まずはハンマー投げの競技とか、そういうものについてどうなっているのかは、東京都や東京都スポーツ文化事業団とか、デフリンピック準備運営本部と連携しながら、情報把握に努めたいと考えているところです。

#### ○大森文化観光戦略課長

それでは続きまして、私からお配りしているこちらのチラシをご覧ください。「聞こえる人も、聞こえない人も“国際手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」のご案内をさせていただきます。

上大崎4丁目でございます喜多能楽堂は、現在大規模改修工事中でございます。3月より新装開場いたします。新装開場記念の演目の一つとして、“国際手話”で楽しむ能狂言鑑賞会を公演いたします。こちらはデフリンピックの開催にちなみまして、大会の運営に活用されます国際手話というものをういた狂言と能の上演となります。

国際手話による狂言は、2024年にフランスで公演した際の凱旋上演となりまして、能については今回が初めての試みとなります。こちらの公演に、区民委員会の皆様をご招待させていただきたいというご希望が喜多能楽堂からもございまして、そちらにもよろしければというお話がメインとなります。

日程が、書いてありますように、3月20日木曜日の祝日となります。14時からの開演、開場時間は13時となります。

裏面をご覧くださいよろしいでしょうか。

上段の説明文、5行目でございます、「特に今回は、2025年の11月に開催されるデフリンピック東京大会に向けて関心の高まる国際手話を使つての上演です」とございまして、中段のプログラムの解説の中で、デフリンピックの認知度向上に寄与した概要説明をするほか、ロビーでPRブースの出展などを考えております。

演目につきましては、狂言では「瓜盗人」、能では「土蜘蛛」を上演いたします。終了時間は16時を予定しております。

もしご希望の方がございましたら、3月5日水曜日までに、私、文化観光戦略課長までご連絡いただければと思います。どうぞよろしく願ひいたします。

**○高橋（伸）委員長**

説明が終わりました。

それでは、本件に関しまして、ご質疑等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

**○安藤委員**

会場が急遽決まったということで、事前に相談もないということなので、びっくりしたのですが、品川区にとっては非常に大きな機会になると思いますので、これからもデフリンピックの啓発、認知度向上に向けて取り組んでいただきたいですし、私も区議の立場で取り組んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。

**○高橋（伸）委員長**

ほかにございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

**○高橋（伸）委員長**

ご発言がないようですので、以上で本件を終了いたします。

そのほかに、その他で何かございますか。

**○三井スポーツ推進課長**

私から、イベントのご案内をさせていただきます。お配りした資料をご覧ください。

こちらは、「親子でジュニアスポーツフェスタ」といって、毎年3月末に実施しているものになります。

こちらの目的ですが、基本的には、新年度に向けて、子どもたちが新しいスポーツを見つけて、スポーツに親しむきっかけになるようにということで開催しているものになります。

会場は品川区立総合体育館で、3月23日日曜日、10時から17時まで実施いたします。

こちらはいろいろ教室があるのですが、事前申込み制だったり、自由参加のものなどを各種用意しているところになります。詳細はこちらのチラシをご確認いただければと思います。また当日は、各地域の少年少女スポーツ団体を紹介するブース等も設置することを予定しております。

周知は、2月21日の広報しながわでも周知をしておりますが、今後、ホームページやSNS、あと、このチラシについては、各小学校へ配布する予定になっております。

**○高橋（伸）委員長**

説明が終わりました。

それでは、本件に関しまして、ご質疑等がございましたらご発言をお願いいたします。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○高橋（伸）委員長

ご発言がないようですので、以上で本件を終了いたします。

そのほかに、その他で何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋（伸）委員長

ないようですので、正副委員長より1点ご案内をさせていただきます。

去る2月21日の委員長会において、議長より、所管事務調査の報告を提出していただきたい旨の依頼がありました。本委員会におきましても、これまで取り組んでまいりました創業・スタートアップ支援について、およびデフリンピックの啓発について、それぞれ調査・研究を行ってまいりましたので、議長からの依頼のとおり、活動の現況を報告してまいりたいと考えております。

これらの文面につきましては、正副委員長にご一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋（伸）委員長

ありがとうございます。では、そのように報告させていただきます。

議長に報告する文面につきましては、後日、皆様にもお配りいたしますので、よろしく願いいたします。

以上でその他を終了いたします。

以上で、本日の予定は全て終了いたしました。

これをもちまして、区民委員会を閉会いたします。

○午前11時49分閉会